

青山剛昌ふるさと館の現状と今後

鳥取短期大学 生活学科 情報経営専攻 准教授

簡 逸 威

青山剛昌ふるさと館 館長

河 崎 積

要約

本研究では、2022年度と2023年度に青山剛昌ふるさと館館内で配布・回収したアンケートを比較分析し、さらに結果から考察し、青山剛昌ふるさと館の特徴と課題を捉えた。これらを踏まえ、青山剛昌ふるさと館は2027年新築移転を計画している。青山剛昌ふるさと館の運営方針として①満足度が非常に高く、紹介したくなる施設、②にぎわいを作り活力を生み出す、地域にとって無くてはならない施設、③鳥取といえば、青山剛昌ふるさと館と誰でも知っていて一度は訪れたい施設、となることを目指している。新館開館に向けてコロナ禍後の回復など諸課題に取り組みながら、コナンのまちづくりが更に発展するための施設運営を目指すと考えられる。さらに、新青山剛昌ふるさと館は北栄町にとどまらず、産業としての地域貢献、公共の地域課題解決にも貢献することを期待する。

キーワード

青山剛昌ふるさと館, マンガ・アニメミュージアム, 北栄町, 鳥取, 地域振興

1. はじめに

今年1月には、国民的漫画『名探偵コナン』は連載30周年となった。作者である青山剛昌氏が鳥取県北栄町出身であることから、北栄町で「青山剛昌ふるさと館」が作られ、こちらも17周年を迎えた。さらに、青山剛昌ふるさと館は2027年出会いの広場に新築移転を計画している。施設の拡大、バリアフリー化、展示の拡充など、より魅力的に進化する。

簡(2024)によると、青山剛昌ふるさと館というマンガ・アニメミュージアムに関する観光施設が作られた目的は地域振興・活性化のためであると述べている。鳥取県北栄町は、「名探偵コナン」の原作者・青山剛昌氏の出身地であることから、大栄町商工会(合併後北栄町)が1997年4月「コナンの里」構想を町に政策提言を行ったことがきっかけであった。「名探偵コナンに会える町北栄町」を謳い、コナンのまちづくりを推進している。1999年JR由良駅と国道9号を結ぶ県道を「コナン通り」と命名し、コナン君をデザインしたマンホールふた、ブロンズ像やブロンズパネルを設置した。2005年10月に旧北条町との合併後、コナンのまちづくりが本格的に取り組みされている。2007年3月に青山剛昌ふるさと館は旧大栄町が建てた「大栄歴史文化学習館」を改装して開館した。開館当初は入館者が伸び悩み年間10万人に達したのは9年後の2015年であった。その後は着実に入館者が増加し、2019年度には21.9万人を超えた。

増加の背景には鳥取県の「まんが王国」の取り組みも大きく関与しており、イベント、広報や鳥取砂丘コナン空港の設置などの相乗効果によると考えられる。2020年度と2021年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により、約6.4万人と約8.3万人となった。新型コロナウイルス感染症の防疫措置が緩和されたことに伴い、2022年度の入館者数は、13.4万人、2023年度は18万人と、新型コロナ前の水準まで戻りつつある(図—1)。北栄町のコナンのまちづくりを進めるうえで、コナン通りと青山剛昌ふるさと館は重要な拠点施設として位置づけられている。

なお、2020年3月の未来投資会議構造改革徹底推進合(2020)によると、青山剛昌ふるさと館が抱える問題点が以下のように整理されていた。

① 館内について

- ・ 施設の手狭感
- ・ 収蔵スペースの不足、保存設備の充実
- ・ 設備の充実(キッズスペース、ワークショップスペースなど)
- ・ バリアフリー対応(エレベーター、手すり、スロープなど)
- ・ 原画保存、デジタルアーカイブ化などのノウハウ不足

② 交通アクセスについて

- ・ 空港連絡バスのほか、駅とふるさと館を結ぶ路線バスを拡充したが、一層の充実が必要

③ 外国人観光客について

- ・ 多言語整備(ピクトグラム化含む)、Wi-Fi整備、宗教

対応

このような背景より、本研究では、まず、2022年度と2023年度の館内で回収したアンケートを分析する。アンケートの分析結果を考察し、青山剛昌ふるさと館の現状と今後を浮き彫りにする。

II. アンケート分析

入館者のアンケートについては、2022年度の配布期間は、2022年5月16日～2023年3月31日であり、回収有効票が1949件である。2023年度には、配布期間は、2023年4月1日～2024年3月31日であり、回収有効票が2829件ある。次に、アンケートの分析結果について述べる。

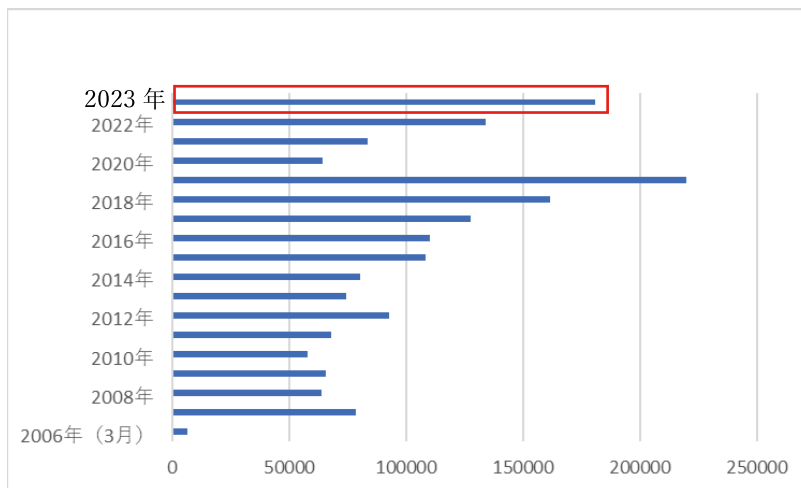
1. 性別

アンケートの結果で、性別については、「女性」が2022年度に68.2%と多数を占めた。2023年度も「女性」が多数であり、約2%増え、70.3%となった（図—2）。「女性」が多い原因は、『名探偵コナン』の内容が謎解きに加えラブコメディ要素も多く、アニメや映画を通じて女性ファンを多く獲得したと考えられる。

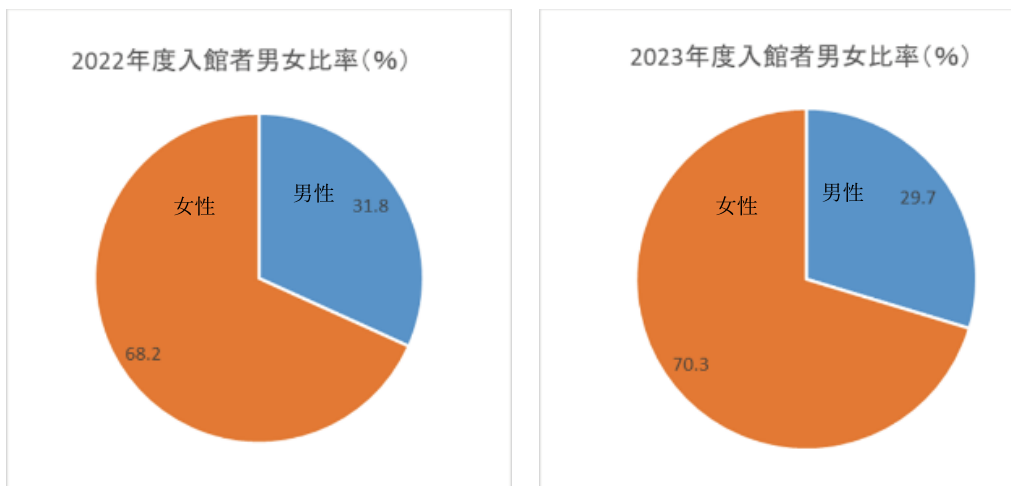
2. 年齢

年齢については、2022年度、2023年度とも、「20代」が最も多く、各40%と40.2%を占めた（図—3）。また、「10代」から「50代」まで幅広く来館している。この結果から、①連載開始から30年となるがファンが持ち上がっている、②子供が好きで親が同行している、傾向が推察できる。

図—1 青山剛昌ふるさと館入館者数年度別推移



図—2 性別比率



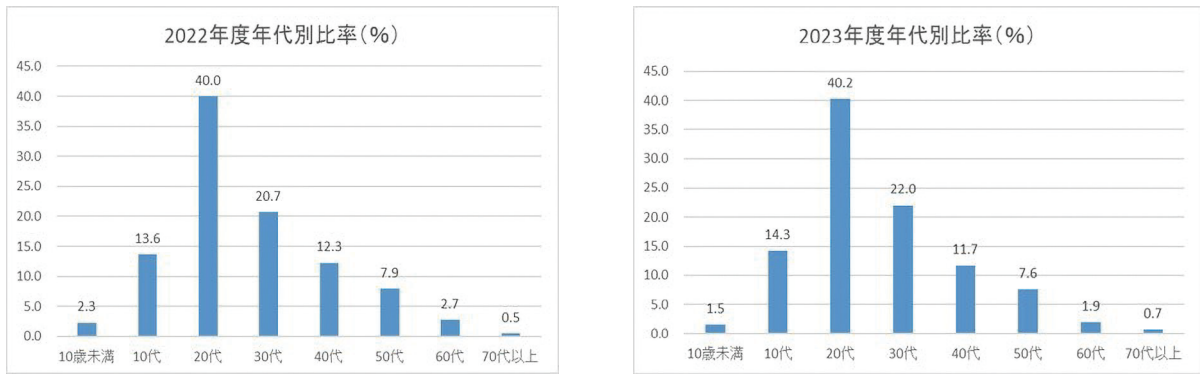
3. 県別入館者

図一4を見ると、青山剛昌ふるさと館の入館者は全国各県から満遍なく入館していることが分かった。第一位は「大阪府」であり、比率は2022年度に13.1%を占めた。2023年度も「大阪府」が第一位であり、約1.6%増加し、14.7%となった（図4）。第二位と第三位は、2022年度と2023年度も変動なく、「兵庫県」と「東京都」となった。注目に値するのは、「愛知県」の入館者比率である。「愛知県」は2022年度第9位から2023年度第4位に急増した。新型コロナウイルス感染症の5類移行などで、愛知県民の利用が拡大されたと考えている。

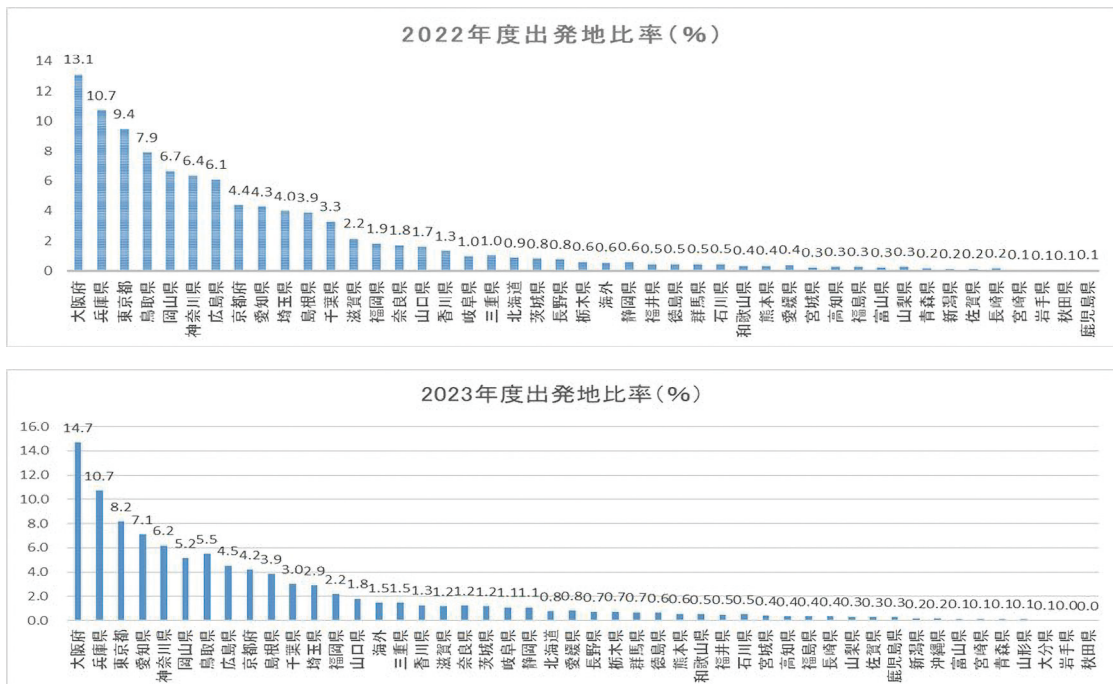
4. 交通手段

青山剛昌ふるさと館へ来る際の利用交通手段としては、2022年度と2023年度には「自家用車」が最も多く各49%と53.4%を占めた（図一5）。次いで2023年度の「飛行機」15.9%「汽車」18.9%「バス」7.2%と公共交通機関の利用が全体の42%を占めた。公共交通機関の利用が増加したのは、県外の日帰り圏以外からの利用が多いことが主因と考えられる。本県では地域の公共交通機関維持が課題となっているが、入館者の利用が課題解決に貢献している。ただし、入館者の意見として二次交通の増便希望が多く、課題となっている。

図一3 年齢別比率



図一4 県別入館者比率



5. 交通手段

2023年度の旅行日程では、「日帰り」は23.2%と少なく、「宿泊を伴う旅行（1泊2日38.6%、2泊以上38.2%）」が76.8%と多い（図一六）。「宿泊を伴う旅行」は2022年度より約3.9%が増加している。入館者の7割以上が宿泊を伴うが、北栄町内には宿泊施設はほとんど無い事から、周辺市町村の宿泊施設に高い経済効果が生じていると考えられる。

6. 同行者

2023年度に青山剛昌ふるさと館へ来る際の同行者としては、「友人」が29.7%と最も多いが、2022年度より減少した（図一七）。

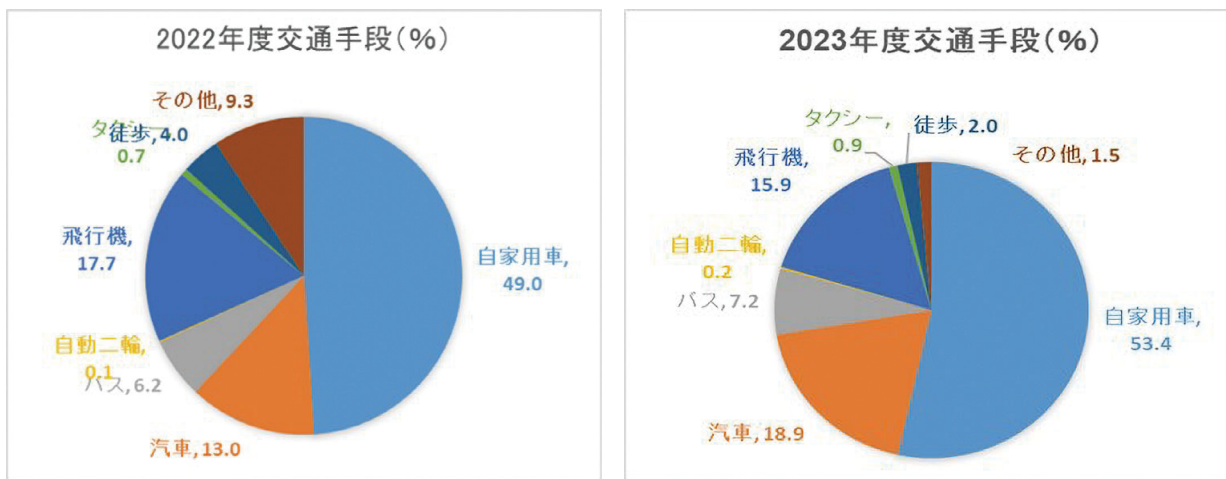
一方、「子供」、「親」、「夫婦」といった家族連れ全体で

見ると57.3%を占め、2022年度より6.2%増加した。新型コロナウイルス感染症が、人間の価値観や行動に影響を与えた可能性がある。2020年5月12日発表の研究機関Roland Berge (2020)は「新型コロナウイルス生活者の価値観・消費行動・働き方はどう変わるか」の中で、家族志向¹⁾という価値観を持っている人間が増えているとの分析を行っている。

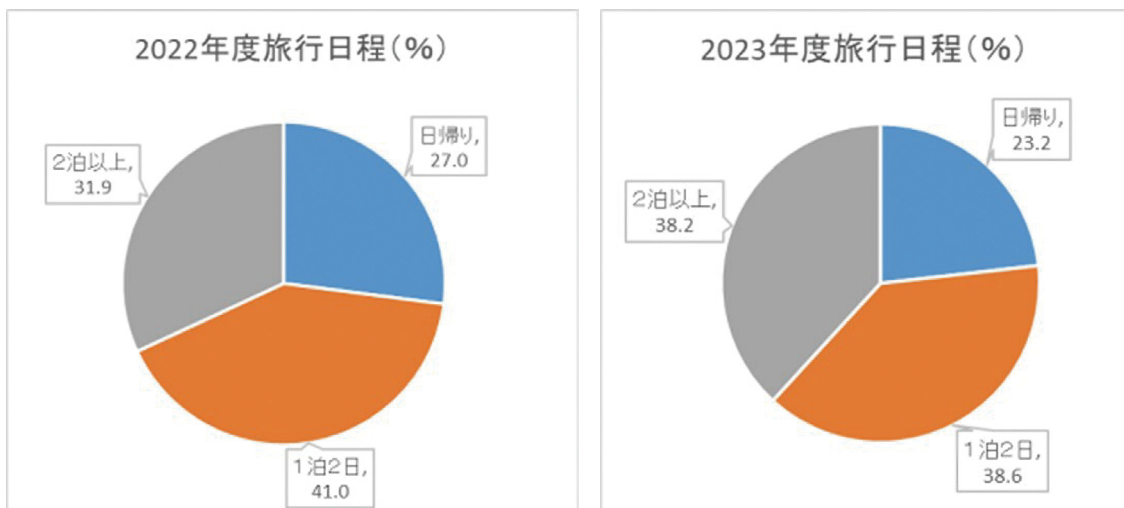
7. 旅行の第一目的

旅行の第一目的では、2023年度の調査結果は、「青山剛昌ふるさと館」が最も多く66.0%で、次いで「温泉・旅館」12.9%、「コナン通り」6.7%、「その他観光施設」5.1%で、この上位4つで全体の90.7%を占めている（図一八）。また、旅行に出た第一目的が「青山剛昌ふるさと館」と「コナン

図一五 交通手段別比率



図一六 旅行日程別比率



通り」で73%と、北栄町が非常に高い集客力を持っていることが明らかになった。

8. 入館回数

図―9を見ると、2023年度の「初めて」が66.3%と2022年度より8.8%減少した。2022年度は政府の全国旅行支援対策により、初めての入館者が増加したと考えられるため、2023年度が本来の率と思われる。

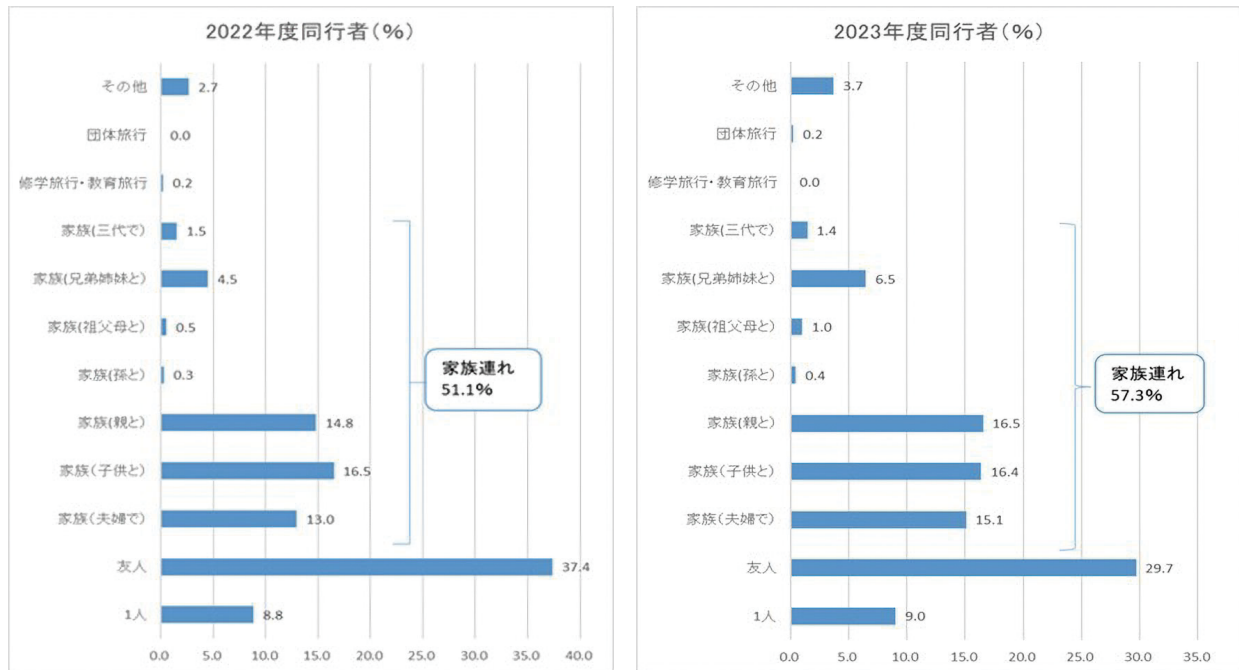
9. 入館のきっかけ

入館のきっかけでは、2023年度の調査結果（図―10）

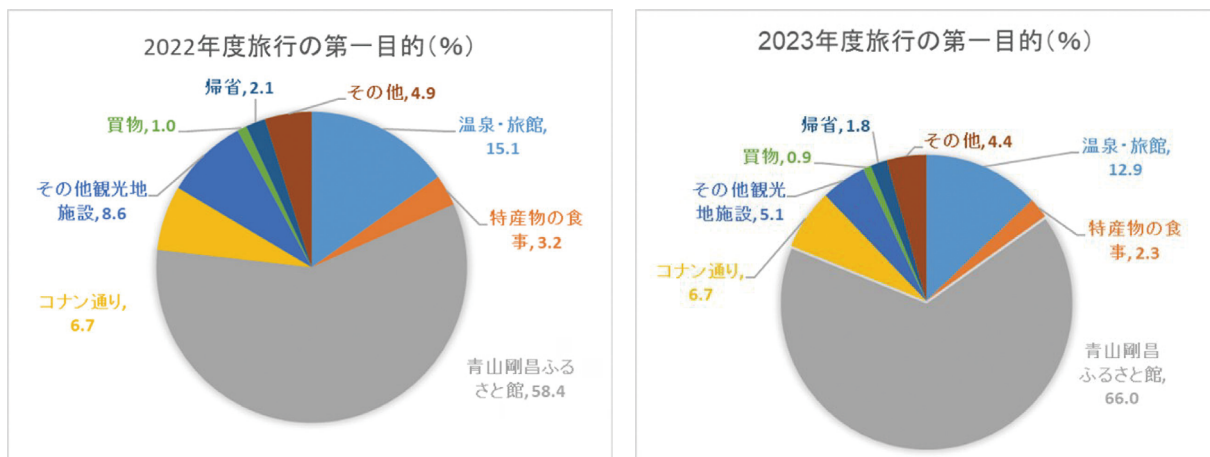
を見るとインターネット関係（ホームページ12.8%、X（旧Twitter）13.4%、インターネット検索31.2%、インターネット広告2.4%）多く、59.8%を占めた。その中で、インターネット関係は各項目とも2022年度より増加した。さらに、Xのフォロワー数が、12.8万人と順調に増加しており、X経由のホームページやインターネット検索からホームページといった利用も多いと考えられる。

インターネット関係に次ぐ知り合いの紹介、いわゆる口コミが17%と多い。入館者の高評価が口コミの多い要因と考えられる。

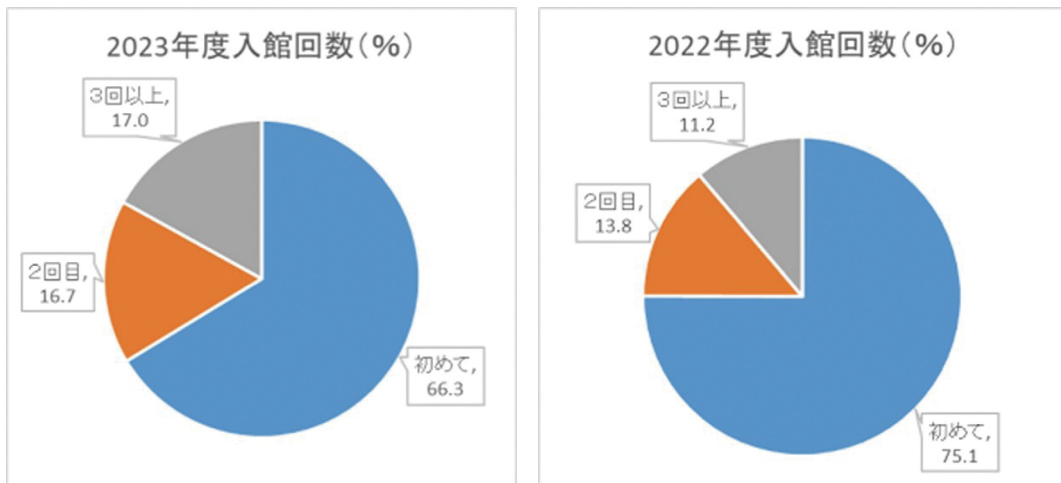
図―7 同行者別比率



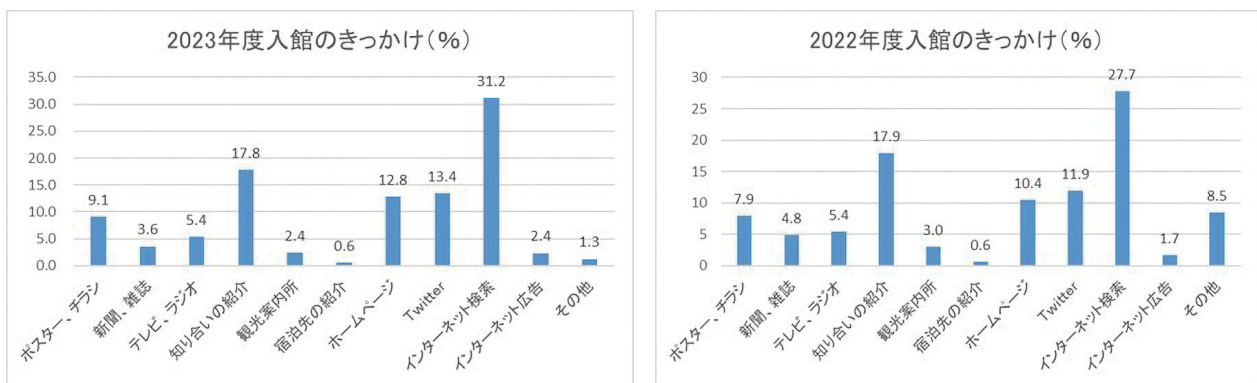
図―8 旅行の第一目的別比率



図—9 入館回数別比率



図—10 入館のきっかけ別比率



10. 満足度

青山剛昌ふるさと館の満足度については、2023年度の調査結果（図—11）に示す通り、大満足が84.9%と非常に高い。2022年度と比較すると、8.2%増加した。増加した原因は、入館者にとって聖地的な場所となっていること、展示が良く工夫され、イベントも好評で、高評価となっていると考えられる。

11. お気に入りの展示

「原画」は2022年度に33.1%と多数を占めたが、2023年度に約8%が減少し、25.2%となった（図—12）。「原画」の減少原因は、新たな展示の追加や充実などにより、他の展示も総合的に評価が向上し相対的に減少したと考えられる。

III. 考察

2022年度と2023年度のアンケート分析結果から考察し、

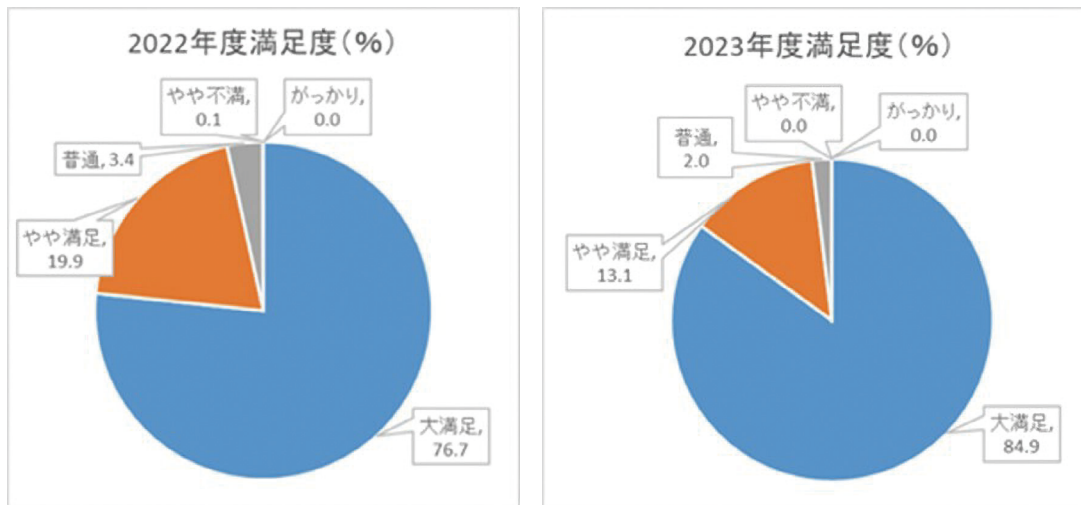
下記の5点の青山剛昌ふるさと館の特徴を捉えた。

- ・ 若年層・女性を中心に全国から広く集客出来ている。
- ・ 旅行の目的地化が顕著で、距離や移動時間、費用にあまり影響無く集客出来ていることから、コナンファン層の中でも、マニア層が主体と考えられる。
- ・ 入館者は宿泊を多く伴うことから、地域に及ぼす経済効果は大きい。
- ・ 入館者の満足度が非常に高く、口コミの増加やリピーターの増加につながっている。
- ・ 入館者の公共交通機関の利用が多く、地域の交通課題に貢献している。

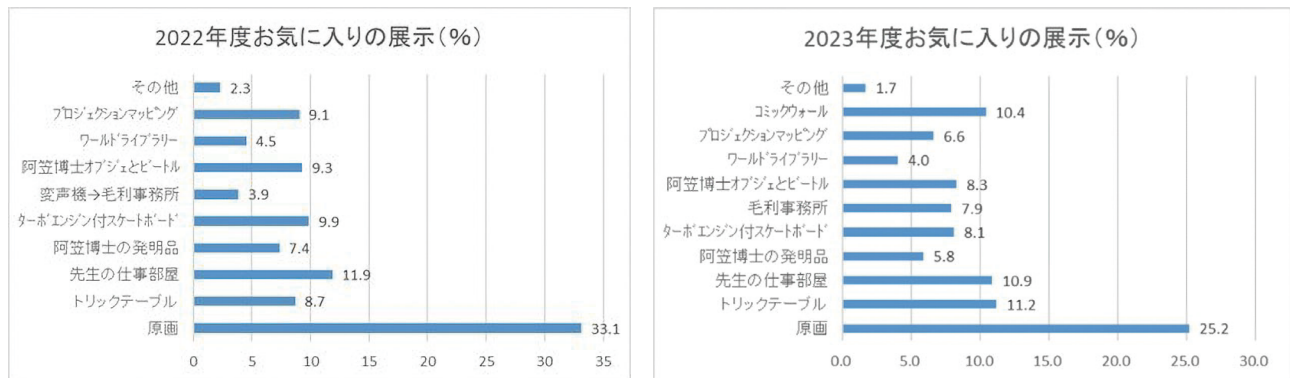
次に、未来投資会議構造改革徹底推進会合の資料並びにアンケートの分析結果を整理・分析し、青山剛昌ふるさと館の課題は下記の6点を抱えることが分かった。

- ・ 青山剛昌ふるさと館のバリアフリーが不十分である。
- ・ 入館者が増加し、繁忙期に入館制限が必要である。入館出来ないお客様から苦情を頂いている。

図一11 満足度別比率



図一12 お気に入りの展示別比率



- ・ 貴重な収蔵品の収蔵, 保管体制が不十分である。
- ・ 入館者が急増すると。観光公害が発生する可能性が高い。
- ・ 飲食・物販施設充実の要望が入館者から多い。
- ・ 名探偵コナンは広く知られているが, 青山剛昌ふるさと館の知名度は低い。

上述した特徴と課題を踏まえ, 青山剛昌ふるさと館は2027年新築移転を計画している。

青山剛昌ふるさと館は運営方針として①満足度が非常に高く, 紹介したくなる施設, ②にぎわいを作り活力を生み出す, 地域にとって無くてはならない施設, ③鳥取といえば, 青山剛昌ふるさと館と誰でも知っていて一度は訪れたい施設, となることを目指している。新館開館に向けてコロナ禍後の回復など諸課題に取り組みながら, コナンのまちづくりが更に発展するための施設運営を目指すと考えられる。

IV. おわりに

本研究では, アンケートを分析・考察し, 青山剛昌ふるさと館の現状と今後を浮き彫りにした。現在の入館者は, ファン層の中でもマニア層が主体と考えられる。名探偵コナンは広く知られているが, 青山剛昌ふるさと館の知名度は低く, 知名度向上による集客可能な潜在顧客は多く, 集客余地は大きいと考えられる。さらに, 青山剛昌ふるさと館は北栄町にとどまらず, 産業としての地域貢献, 公共の地域課題解決にも貢献することを期待する。

注

- 1) 家族志向: 家族のことを第一に考えた時間の使い方, 消費行動をとる。

引用文献

簡逸威 (2024). 「Google Trendsに基づく観光施設来客数に関する
実証研究：青山剛昌ふるさと館を例として」『鳥取看護大学・鳥
取短期大学研究紀要』(88), 21-28.

Roland Berge (2020). 「新型コロナウイルス生活者の価値観・消費
行動・働き方はどう変わるか」(2024年6月26日参照)

未来投資会議構造改革徹底推進会合 (2020). 「地域経済・インフラ
会合（中小企業・観光・スポーツ・文化等）第8回配布資料」『首
相官邸』[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/
miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/chusho/dai8/siryou9.
pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/chusho/dai8/siryou9.pdf)(2024年6月26日参照)